

膵がん術後残膵再発に対する残膵全摘術の意義に関する後方視的検討

1. 研究の対象

2008年1月から2014年12月までに、国立がん研究センター東病院で膵がんに対して切除を施行した198例のうち、再発が認められた127例を対象にします。

2. 研究の概要

膵がんの予後が不良であることの一因に、切除後の高い再発率が挙げられます。再発した膵がんに対しては全身化学療法が適応となりますが、残った膵臓にのみ限局した再発（残膵再発）に対しては、残った膵臓を切除する（残膵全摘術）という治療方針により予後が改善するという報告があります。しかし、過去の報告は対象数が少なく、さらに残膵全摘術後の経過についての詳細な検討はなく、残膵再発に対する残膵全摘術の意義ははっきりしていません。本研究では、膵がん切除後の残膵再発に対して残膵全摘術を行っている患者さんにおいて、残膵全摘術後の経過や、その他の再発群との生命予後を含めた調査をすることで、残膵再発に対する残膵全摘術の意義について詳しく検討します。

3. 研究の意義と目的

残膵のみに限局した残膵再発に対して、残膵全摘術を施行するという治療方針により予後が改善するという報告がありますが、過去の報告は対象数が少なく、残膵全摘後の再発形式や再発後の治療内容などについての詳しい報告はありません。そのために残膵再発に対する残膵全摘術が本当に予後を改善しているのかははっきりしていません。

本研究により、膵がん術後の残膵再発に対して残膵全摘術を施行することが有益かどうかを判明すれば、残膵再発の患者さんの治療方針の一助になる可能性があり、今後膵がん術後の残膵再発の患者さんに役立つ情報であると考えています。

4. 方法

2008年1月から2014年12月までに国立がん研究センター東病院肝胆膵外科で膵がんに対して手術が行われた患者さんの診療録から必要な情報を収集し、検証します。収集したデータは国立がん研究センター東病院肝胆膵外科の下で、期限を定めずに国立がん研究センター内に厳重に保管します。

5. 個人情報保護に関する配慮

閲覧する診療録等には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は、研究登録時に発行される登録番号、生年月日、カルテ番号を使って管理するため、患者さんの氏名などの個人情報が院外に出ることはありません。また患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますのでいつでも下記まで申し出てください。

問い合わせ・苦情等の対応窓口

・ 研究責任者

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科 医長 高橋進一郎

TEL 04-7133-1111 / FAX 04-7131-4724

・ 研究事務局

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科 中山雄介

TEL 04-7133-1111 / FAX 04-7131-4724